

神戸市内からのツマベニヒメナガカメムシの記録

吉田浩史

ツマベニヒメナガカメムシは、2018年に関東地方で確認された外来種のカメムシの一種である(中谷ら, 2019)。その後、翌2019年には関東地方の広範囲に広がっていたとされる(中谷ら, 2019; 伴, 2019)。

関東地方以外ではネット上でわずかな記録のみであり、少なくとも兵庫県からは初記録と思われるため、ここに報告する。

関東地方において急速に分布を拡大したこと、寄主植物としてアカバナ科のマツヨイグサ類をはじめ13科に及ぶ幅広い種が記録されていること(中谷ら, 2019)から、今後兵庫県を含む近畿地方でも各地で確認される可能性があり、注目が必要と考えられる。

半翅目 マダラナガカメムシ科

ツマベニヒメナガカメムシ *Neortholomus scolopax* (Say, 1831)

1♀(図), 神戸市須磨区一ノ谷町, 須磨海岸, 0m, 13. XI. 2020, 吉田浩史採集。



図 ツマベニヒメナガカメムシ(筆者撮影)。

長島聖大氏には本種の分布情報を、宮内博至氏、山添寛治氏には文献情報をご教示頂いた。ここに厚くお礼申し上げます。

参考・引用文献

伴光哲, 2019. ナガカメムシ研究を巡る近年の話題—分類および生態を中心に. 生物の科学 遺伝, 73(4): 361-367.

中谷至伸・友国雅章・野澤雅美・奥田恭介・相馬純, 2019. 関東地方で2018年に発見された北米原産のナガカメムシ *Neortholomus scolopax*. *Rostraria*, (63): 87-90.

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市)

兵庫県のキュウシュウクチブトカメムシの古い記録について

宇野宏樹

キュウシュウクチブトカメムシは本州・四国・九州・対馬・トカラ列島(平島)・奄美大島に分布するカメムシである(石川・高井・安永, 2012)。兵庫県における本種の生息状況については、占部(2010)が神戸市須磨区での本種の採集例を「これまでに記録がないと思われる兵庫県で採集したので報告する」として報告しているが、正確にはこれは兵庫県初記録ではなく、1994年出版の「宝塚の昆虫 VII」で宝塚市における本種の記録が報告されている。筆者は本文献を古書店で購入したが、現在はほとんど入手不可能であると思われるのでここに記録を引用しておきたい。なお、県内における本種の記録は少なく、占部氏の報告が貴重なデータであることには変わりはない。

宝塚市香合新田. 1ex, 10. III. 1990; 2exs, 14.IV. 1991. 小田中健採集。

宝塚市玉瀬. 1ex, 14. II. 1993. 小田中健採集。

なお、玉瀬の記録については、原文献には「玉瀬」と表記されているが、おそらくミスタイプであろうことから、修正している。未筆ながら、本報告の執筆を勧めてくださった中峰空博士に厚くお礼申し上げます。

○引用文献

石川忠・高井幹夫・安永智秀, 2012. 日本原色カメムシ図鑑第3巻. 全国農村教育協会。

占部智史, 2010. 兵庫県神戸市でキュウシュウクチブトカメムシを採集. きべりはむし, 32(2): 41.

宝塚市教育委員会, 1994. 宝塚の昆虫 VII ハチ・アリ・ノミ・(補遺)。

(Hiroki UNO 京都大学大学院農学研究科)

姫路市夢前町菅生川のトゲナベブタムシの記録

石田真載・石田哲哉

トゲナベブタムシ (*Aphelocheirus nawai*) はカメムシ目ナベブタムシ科の昆虫で環境省レッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、兵庫県レッドデータブックではAランクとされている。近年、生息地が激減しており、その